

年頭の挨拶

議長 立花 富雄

昭和三十七年の新春を迎えるに当り、皆さんの御健康を祝し、御多幸を祈って止みます。

省みまると、昭和三十六年はわが方城町にとりまして極めて多事多難な年であつたと存する次第であります。

己に御承知の三菱方城炭坑の整備縮小は実質的閉山処理期としての様相を呈してまいり、本年一ぱいを以て閉山するやも知れないとの噂も耳にする時期になりました。

エネルギー革命による炭界不況はこのような形でわれわれの目の前にヒシヒシと迫ってきているのであります。

脱却し、新生方城町の輝かしい第一歩であるとする次第であり、皆さんの絶大な御協力により是非完成すべき事業であると思ふのであります。

これら根本問題の解決によりまして、従来の炭坑に代るべき他産業の誘致も可能になるのであります。町自体の体質改善の重要な事業であるとする次第です。

併しながら事業完成までには、なお幾多の困難な問題があると思ひますが、これが成否のかぎは町当局は勿論であります。町民皆さんの勇気と実行力とにかかっていると存じます。議会としましては皆さんの信頼にこたへるべく懸命の努力を惜しまない覚悟で御座います。

何卒今年も良い年でありますように、皆さんの御多幸を祈念して年頭の挨拶と致します。

「弁城ダム産みの親」

前農林省かんがい・排水課長

野知浩之氏を迎えて

「野知氏談話」ダムの建設には

全市的に協力します



(伊方ダムについて陳情する地元代表原田秀次郎氏)

「淡い希望だけでは誰しも捨ててはいなかったのだ。お互いに住みよい社会を作り子弟をよりよく育てたいと願うものはありませぬ。よりよい社会を作るためには、我々のため身をなげうってついでにもらえぬ最も適切な、しかも卓越した政治手腕をもった指導者を必要とする。これは、いまさら言をまたないでありませう。しかし、こうした町民の願望を成しとげるには、周密なその準備と最善の適機を必要とします。

町の心臓ともいふべき方城炭坑の坑も、いくらかはいいという噂をされていた。今から五年前、倉石町長は時は「来たれり」と弁城ダム建設に一身を投じ、悲壮な決意で起ち上られたのであります。幸にして町議会の方々をはじめ町民の熱意と理解ある協力によって発足したものの、三十六年の起工段階に至るまでには、迂余曲折、悲喜交々の現象が繰り返されたのであります。中でも農林省への数回の往來する陳情と許可の請願の折の情景は、町長の生涯を通じて忘れられぬ記憶として残されたことでありませう。交渉中緊迫した一喜一憂の中で最も嬉しい排水課長を担がせられていた野知浩之氏が、町からの陳情による町情勢を觀察せられ決然として断を下されたことにより、ダム建設の許可がスムーズに運ばれたことでもありました。

いいかえれば我々のために、助け神であつたといつても過言でないものであります。旧臘十二日午前十時同氏が突然退官挨拶のため来町されるとの報に接したので、町内の各種団体の方々に知らせして役場に集つていただき、歓送の一席を催したのであります。その席上で氏は現職退官を發表、今後は政界に身を投じて一介きすると誓つていました。この機会を得た事を幸に弁城ダムの今後の事業の推進や、伊方ダム建設促進方について町民代表から、熱意ある謝辞や陳情を申し上げたところ、快く民意を受諾せられ必ず要望に応えるよう、努力すると力強い発言をいただきました。出席者二百余名の方々は野知氏の誠意に深く感謝の意をさげると共に、氏の將來の祝福と町発展を期すべく万歳三唱して意氣ある幕を閉じたのであります。

町長年頭の挨拶

町民の皆さん、倉石でございます。明けまして御目出度うございます。

毎年毎年、日移り月変わり正月は訪れてまいります。何度迎へましても正月はすがすがしいもので、御一家のおいさん、おばさん、お子さん、お孫さんたちがだんらんすごされるのもまた格別楽しいものです。

このように、いづこを見てもどかな新春の姿ですが、しかし、目を日本経済に転じますと大きな変化が訪れようとしております。まづ、エネルギー変革と貿易の自由化によって石炭産業の危機が叫ばれ、石炭の町として発展して来た方城町にも、例にもれず三菱方城炭坑の整備縮小、更に三十八年には閉山という事実となつて現われております。私達は先ず炭坑の存続を願うと共に、閉山の場合の事態にも備へねばなりません。



(倉石町長)

せん。炭産職者の増大とその対策、代替産業の誘致に全力を尽してまいります。炭産の振興対策が強く叫ばれ、当町に於きましても朝野をあげて懸命に努力して

を見ましても町の体質改善を必要とする程の重要な問題ばかりであります。勿論、私は皆さんの御協力のもとに、これらの解決に全力を尽してまいります。その具体的な施策として、まづ第一が三十五年に完了しました全町五百町歩にわたる植林事業

を必要とする程の重要な問題ばかりであります。勿論、私は皆さんの御協力のもとに、これらの解決に全力を尽してまいります。その具体的な施策として、まづ第一が三十五年に完了しました全町五百町歩にわたる植林事業

するため不可欠のものであります。併せて余力を活用して、発電、その他の多目的に利用し、今後の社会に開いておられますので、この解決策として本年は青年、婦人研修所におきまして、ぜひ町営の公民館結核を行なうべく、着々準備中であるのであります。

また本年は、生活困窮者炭産職者の主婦を対象とした家内工業の奨励のための諸施策を、ぜひ実現させたいと思つて居ります。これは石炭産職者救済対策と密接不可分のものであるからであります。

年頭に当り、申しあげたい抱負はたくさんございませうが、以上、本年度の施策上の主な重点目標を披れさせていただきます。皆さんの御協力のもとに、楽しくて住みよい、福岡県の方城、田川の方城の建設に邁進したいと思ひます。

何卒、新春における皆さんの笑顔が、一年経った本年の年末にも持ちますように、年頭の御挨拶といたします。

をとりあげてみましても、その合理化、簡素化がかなり進んでおります。その多目的に利用し、今後の社会に開いておられますので、この解決策として本年は青年、婦人研修所におきまして、ぜひ町営の公民館結核を行なうべく、着々準備中であるのであります。

また本年は、生活困窮者炭産職者の主婦を対象とした家内工業の奨励のための諸施策を、ぜひ実現させたいと思つて居ります。これは石炭産職者救済対策と密接不可分のものであるからであります。

御目出度うございます

本年も夢と希望を燃して頑張りましょう

伊方ダムは何故必要か

その概要と建設促進について

弁城ダムは、昭和三十三年の早魃を契機に、計画が進められ、血の滲むような懸命の努力と、町民各位の絶大な御協力に依り、僅かな期間で着工の運びとなり、去る十二月十四日盛大に起工式が挙行された。この弁城ダムが完成し満水を想定したとき

に、例年早魃に悩まされてきた弁城地区農家の喜びは如何ばかりかと、御同慶に堪えない次第であります。弁城ダムは、一応軌道に乗る、逐次事業が進んで居りますので、次は先ず伊方ダムに向け、その建設を目ざす計画について述べてみます。

御承知のように伊方地区にも丘陵地帯多く、早魃常習地帯として、有難からぬ、汚名を頂戴して居る状況であります。

伊方ダム建設予定の長浦地区全景



(伊方ダム建設予定の長浦地区全景)

